

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	100	学校名	沼津市立沼津高校・中部	校長名	伊藤 直美
------	-----	-----	-------------	-----	-------

\*評価はA・B・C・Dを記載。

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題	
1	地域や保護者との連携協力による安全安心な学校づくり	生徒個々の通学路に対応した交通安全教育の実施	・交通事故前年比 10%減	生徒	・交通事故 令和6年度 1件 令和7年度 6件 ・違反切符 令和6年度 342件 令和7年度 199件 (11月末時点)	B	・交通事故は目標達成ができず、大幅に増加した。(被害4件、加害1件、加害過失1件) ・違反切符は激減したが、いつ大きな事故が起きてもおかしくない状況だという認識をもち事後指導を実施する。
		いじめ防止対策基本方針に基づく取組の実施	・SNS問題等への計画的指導 といじめの撲滅 メディアポリシーの周知 SNSに関する講話年1回	生徒	・外部講師を招き、スマートフォンの使用やSNSの活用方法等について、中部は携帯安全教室、高校は情報モラル講座として、講演会を行った。 ・SNSに関する指導件数は、高校2件2人。	B	・学習用端末としてタブレットやクロムブックの活用については、不適切なものもありその都度、学年単位で指導した。 引き続き、教務部長や情報担当に協力を仰ぎ、今後も連携を取りながら指導をしていく。
		PTAと連携した感染症対策及び防災対策の推進	・防災講座の開催 ・第五校区防災連絡協議会の開催と地域防災への貢献向上  地区防災参加率 80%以上	総務	・学年毎に実施 ・自主防災会から寄せられた質問への回答と、防災マニュアルの更新を行った。 ・9,12月の地域防災訓練の参加率は27.9%だった。	B	・引き続き地区防災協議会との連携を深めるようにしていく。 ・参加報告をデジタル化にして以降、参加率が下がった。紙の報告書に戻すべきか検討中。今後も参加を呼び掛けていく。
			・感染症対策と人権教育の徹底 ・救急法訓練等の実施	保健	・感染症対策については、換気を励行した。人権教育については、カウンセリング室との連携に努め、生徒が安心して学校生活を送れるよう情報共有をした。 ・教員に対して救急救命法研修を1月下旬に行い、多くの教員が参加できるようにした。	A	・感染症対策は、引き続き換気を励行していく。 ・人権教育では、様々な家庭環境下に置かれている生徒について理解を深めるよう、担任、分掌間にて情報共有をしていく。 ・救急救命法研修は外部機関との連携を引き続き行いながら、定期的に研修内容を見直していきたい。
		学校施設の安全点検	・学期1回	保健	・各学期に1回、施設の安全点検を行い、関係各所に結果を伝達した。	B	・修繕が必要なものについて、事務室が速やかに対応した。
		不祥事根絶研修による取り組み実施	・体罰・交通事犯・ネットトラブル0件	管理職	・年間9回研修を行い、職員による体罰、ネットトラブルは0件	A	・今後も不祥事根絶に向けて真摯に取り組む。
		保護者との双方向の情報通信システムの研究	・他校の情報収集	教務	・C-learningを適切に管理運営した。	A	・学校と保護者が双方向でつながることができるようになり、情報交換を適切に行うことができた。 ・アンケートもC-learningを通じて行うことでスムーズに回収を行うことができた。
		学校運営協議会の実施	・年間3回の実施	管理職	・学校運営協議会を3回実施した。	A	・本校の在り方について、助言をいただき今後の検討に生かしていきたい。
2	自ら学び、自ら進路を切り拓く生徒の育成	中高6年間のキャリア教育の推進	・「総合的な学習(探究)の時間」の充実	教務	・中高6年間の育成したい資質・能力を整理し、ステップアップの構造をつくった。 ・探究委員会を年間3回実施し、各学年でやっていることや課題を共有した。 ・各学年の発表会では、地域や外部の人材に積極的に働きかけ、生徒の成長により一層資するものとした。 ・他県の先進校を視察し、探究学習の内容を再考するきっかけとし、それを他の教員に周知した。 ・中高合同の探究発表会を実施し、次年度の探究に向けて生徒の意識を高めた。	A	・中高6年間で、それぞれの学年で育成したい資質・能力を整理して表の形でまとめることで、何のために探究学習を行っているのか、わかりやすくすることができた。今後はこれを生徒にも示しながら、学習を自走できる生徒の育成をはかりたい。 ・各学年が工夫しながら探究活動を実践したことで探究について自分事として考える教員が増えた。その結果、市や民間企業とも関わりながら有意義な活動を行うことができた。 ・指導方法について教員のスキルアップが求められる。 ・一部の教科で探究の方法や内容とからめて教科指導を行うことで、探究を「総合的な探究の時間」だけにせず、教科指導とも連携して、生徒がより一層学習に前向きになる環境を醸成した。今後はそのような授業をさらに増やせるように教員の意識の醸成をはかりたい。
		・中高6年間の進路シラバスの活用 ・生徒の進路希望に応じたキャリアガイダンス、進路講座の実施	進路	・進路シラバスを活用して各種行事等を実施した。 ・大学、専門学校ガイダンスに加え、看護医療、リハビリ職講座まで実施することができた。	A	・生徒の実態に合わせて多種多様なガイダンスを実施できた。 ・大学ガイダンスで多くの生徒の参加を実現できた。 ・中高6年間のキャリア教育の流れを、もう一度検討し策定する。	
		個別最適な学びの推進	・外部模試とICTを活用した学習課題の把握  ・学力向上委員会の分析結果の活用	進路教科	・1年部はclassi等の学習課題を活用して個別最適化をはかり、全学年を通して目標の設定、事後指導を行いながら外部模試に備え、学力向上をはかった。 ・進研模試のデータ分析を行った。	B	・今後は計画的に課題等を指示して継続していきたい。 ・データの比較を通して現状を把握し、各教科の学習改善に生かすことができた。 ・学力向上委員会では、学力上位層を中心に検討を行ってきたが、下位層の指導も含めて行う。

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題	
	学習指導要領への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程の検証と改善検討</li> <li>中学校の評価方法をいかす 高校観点別評価の研究</li> </ul>	教務	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科会議にて、観点別評価を生徒自身が自らの学習を自己調整できるようにするための方策を検討してもらい、それを実施してもらった。</li> <li>現行の教育課程について各教科で課題点等を検討してもらった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の自己調整のための観点別評価の活用について、その方策を検討することで大きな一歩を踏み出した。しかし、まだ意識の醸成は不足しているため、次年度以降も周知徹底をはかりたい。</li> <li>現行教育課程をよりよく運用するために必要な変更は来年度行う。また、次期学習指導要領の情報を積極的に得て、それを教員に周知したい。</li> <li>Gコース理系の設置から3年が経ったため、ここまでの振り返りを行い、その課題解決に取り組んでいきたい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム・マネジメントの推進</li> <li>単元配列表等を活用した横断的・総合的な授業の推進</li> </ul>	研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修①総合的な探究の時間の目的と意義について②探究をふまえた授業改善について。問いを立てること、生徒が自分で学習を進められる授業（白水先生）③都市立公開授業に合わせてクロスカリキュラム（教科横断、中高縦断）の実施④探究的な授業の参観</li> <li>カリキュラム・マネジメントを意識した実践を行うことができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科横断、中高縦断授業では、生徒が授業に積極的に参加し、自ら学ぼうとする姿勢を養うよい機会となったと感じる。</li> <li>各授業において、より適切な問いを立てられるよう、実践を重ねる必要がある。</li> <li>中高一貫校の強みをいかした活動について、引き続き教員全体で考える研修を行いたい。</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事の教育効果の検証と精選</li> </ul>	高2	高2満足度 94.9%	A	国際理解・外国語教育・探究学習について十分な研修ができた。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>修学旅行満足度</li> <li>中等部 90% 高校 90%</li> </ul>	中3	中3満足度 98.7%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>実行委員および各係において、責任を持って取り組めた。事前事後の学習も含めて、平和について理解を深めることができた。ほとんどの生徒が充実した3日間を過ごせた。</li> </ul>		
	入試制度変更への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>国公立大推薦対策、多面的総合評価への対応・数学や英語の外部検定試験等に対する対策</li> </ul>	進路	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会に参加</li> <li>新しい共通テストの出願にも、問題なく対応できた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試における評価の観点を知った。</li> <li>学校説明会を多くの教員が参加し、情報共有ができた。</li> </ul>	
3	文武芸の三道鼎立で人間力を磨く逞しい生徒の育成	中高一体となった授業改善等研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内研修会年間2回</li> <li>AL授業の実施</li> <li>授業への取入れ割合 100%</li> <li>県内市立高校合同研修</li> <li>年間20人以上</li> <li>先進校視察5校以上</li> <li>ICTを活用した授業、習得活用・評価に関する研修</li> </ul>	研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価アンケートではAL授業の有効性を76.7%の生徒が感じており、前年度より3.5%上がった。また、86.0%の生徒が学校はICTを活用していると答えており、前年度より2.0%上がった。</li> <li>本校での研修会には外部から12人の参加があった。</li> <li>代ゼミ、駿台などのオンライン研修を活用した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業はクロスカリキュラムを中心にAL型授業公開を行ったが、ALについては定着してきたと思われる。研修会への参加は、県内市立高校を中心に参加人数を増やしたい。そのためにも本校から外部への参加も増やす必要がある。</li> <li>ICTの活用はできている。</li> <li>オンライン研修の参加は1～2件であったので、研修費の活用方法を検討する必要がある。</li> </ul>
		自尊感情を高め、自主自立の精神を養う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>制服を正しく着こなし、さわやかな挨拶、清掃ができる生徒の育成</li> <li>挨拶、清掃がしっかりできる70%</li> </ul>	生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校自己評価アンケートよりQ生徒たちは清掃活動を通して、身の回りの美化の習慣が身についた。67.9%</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度59.9%が、本年度67.9%に上昇した。着こなしや挨拶は、学校生活の根幹となる部分なので、全教員が統一した基準で、引き続き丁寧な指導を徹底していく。</li> </ul>
		主体的な生徒会活動への支援と生徒会行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校祭生徒満足度70%</li> <li>部活動、生徒会、ボランティア活動、進路指導等とおしてやり抜く力を身に付ける。</li> <li>部活動退部率10%以下</li> <li>共通テスト受験者70%</li> <li>部活動の効率的な指導法の研究</li> <li>部活動ガイドラインの周知と見直し</li> <li>部活動休日</li> <li>平日1回</li> <li>(中等部は2回)</li> <li>週末1日の実施</li> </ul>	生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>鷹峯祭満足度アンケート(生徒)92.4%</li> <li>高校1年生転部 5人</li> <li>学校自己評価アンケートよりQ生徒達は、部活動や校外での活動に対して主体的に取り組んでいる 79.1%</li> <li>部活動休日</li> <li>週1回は徹底されている。</li> <li>平日の休養日は、長期休業期間に代替え等で実施した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会を中心に、全生徒の協力のもと学校行事が活発に行われている。</li> </ul>
		地域貢献活動の奨励	<ul style="list-style-type: none"> <li>一部活一貢献活動</li> <li>全校生徒によるボランティア活動の実施</li> <li>外部主催ボランティア参加者数 前年度比10%増</li> </ul>	生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア参加人数 227人</li> <li>生徒1人によるボランティア参加回数は、1回が157人と一番多かった。</li> <li>延べ件数は336件。</li> <li>市役所から依頼のあったボランティア活動へ2部活が参加。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度54人から、今年度227人へ増加。ボランティア参加人数も増加傾向にある。ボランティアへ参加した生徒の人数の把握は、C-learningを使って調査した。</li> </ul>
		環境美化習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校生徒による環境美化習慣の確立</li> </ul>	保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の清掃活動について、より積極的に取り組んでもらうための対策を部員間で提案しあった。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校行事等の関係で、清掃できる日が限定されてしまう。効率良く、清掃ができる方法について再考していく。</li> </ul>
道徳教育研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育研究</li> </ul>	中等部 公民 保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>担任のみでなく学年職員全員で授業と所見の作成を行っている。</li> <li>年間指導計画を作成し、重点項目</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>教員の道徳教育に対する意識が高まり、生徒の道徳心も育まれつつある。</li> <li>学年職員で行う授業を継続し、道徳の授業だ</li> </ul>		

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題	
				を職員全員で把握している。		けではなく、学校の教育活動全体を通じて心を育てていく。	
		・読書指導と探究活動を支える本のレファレンス ビブリオバトル校内大会実施	研修	・ビブリオバトル大会については校内運営が定着した。 ・図書委員会の活動で、貸出冊数を増加させられる取組みを行った。	A	・図書委員会がよく活動した。今後も図書館の活用を促したい。 ・ビブリオバトルを軸にして、読書に親しむムードを育てる仕掛けをつくりたい。	
	三道鼎立で人間力を磨く	文 中等部 英検3級全員取得 英検準2級10%	中等部	・英検3級45.0% (第2回まで) ・英検準2級10.0% (第2回まで) ・英検2級3.8% (第2回まで) ・数検3級2.5%	B	・3級取得までの見通しを全員が持てるようにする必要がある。家庭への金銭的な負担があるため、GTECの指標を活用してもよいのではないかと。 ・数検3級は中学卒業レベルのため、なかなか受検につながらなかった。	
		高校 難関大学進学25% 就職決定率100% 医療看護系志望進学率100% 進路満足度80%	進路	・共通テスト受験者78.4% ・就職は残り1人 ・専門学校決定100% ・116/190人が進路決定(1/19現在)	A	・生徒の学力の2極化が見られた。年内入試の生徒への学習の意識づけも必要。一般試験の生徒へ年間を通してのかかわり方を考える必要がある。 ・進路指導の研鑽を積む必要がある。 ・進路指導で行っていることを保護者にしっかり発信する必要がある。	
		武 中等部 運動部県大会出場90% 東海大会出場2部活	中等部	・県大会出場100% ・東海大会以上出場(女子バスケットボール、柔道、弓道、バトン、新体操)	A	・県大会までつながる部活動は、すべての部活動が県大会に出場し、活躍が見られた。	
		高校 運動部県大会出場90% 東海大会出場3部活 新体力テスト男女優良校	高校 体育	・県大会出場78.6% ・東海大会出場【弓道、女子バスケットボール、陸上競技】 ・新体力テスト満点者3人	B	・弓道部1人が静岡県代表として国民スポーツ大会に出場して活躍した。 ・東海大会出場3部活に加え、多くの部活動が県大会で活躍した。 ・男子の体力向上が課題。	
		芸 中等部 文化部地域との交流100% 沼津市芸術祭出場2部活	中等部	・文化部地域との交流(第五地区コミュニティ祭り等) ・沼津市芸術祭参加	A	・金岡地区のコミュニティ祭りは中止になってしまったが、第五地区のコミュニティ祭りに出演し、地域の方の前で演奏を行った。地域交流を活用して地域への感謝の気持ちを示していくことを再確認し推進していく。	
		高校 文化部地域との交流100% 沼津市芸術祭出場2部活	高校	・文化部 地域との交流66.7% ・沼津市芸術祭(吹奏楽、書道)	B	・吹奏楽部、バトン部、書道部を中心に、積極的に地域のイベントに参加し、日頃の活動の成果を披露するとともに、地域の方々と交流することができた。	
4	持続可能な沼津市の未来を創生するグローバル人材の育成	総合的な学習(探究)の時間の充実	・地域(沼津市)探究の充実	学年	・3年生はInspire Highの「プロジェクト機能」を用いて進路探究を個人で取り組んだ。自己の進路先における課題を探究し、将来の展望をもった。 ・2年生は国際的な視野を養いつつ沼津についての探究を行った。修学旅行で訪れたシンガポールでも探究活動を行い、日本との比較や、沼津における方策を考える上でのヒントを得た。また、年度前半と長期休業には生徒自身の興味関心のある事柄を個人で探究することで、自己のキャリア形成につなげた。 ・1年生は「沼津市をよりよくするために」というテーマで探究活動を展開した。問の立て方、情報収集、探究サイクルなどの探究スキルを身につけながら、他者と協働する力を養うことができた。	A	・進路先における課題をテーマに、個人で探究のプロセスを辿り、進路先理解、自己理解を深めた。探究したことを学年探究発表会で発信し、様々な進路先における課題や解決先に触れ、個人探究の仕方を身に着けた。 ・2年生は外部団体(ディレクトフォース)の支援や修学旅行での経験を踏まえながら探究学習を深めることができた。また教育委員会主催の探究発表会にも3団体が申し込み、意欲的に取り組んだ。その他、沼津市の事業で行われた起業に関する講座やまちづくりに関する活動を外部団体の協力のもと開催し、生徒が主体的に参加することで、探究スキルの向上に努めた。 ・1年生は複数回外部より講師を招き、学年探究発表会を実施した。振り返りアンケートの「気づき」や「問の変化」の項目が向上し、生徒の成長を感じられた。また、講師から詳細なフィードバックを頂くことで、課題が明確となり、次のステップへ円滑に進むことができた。
		地域を支える医療人材の育成	・医療看護講座の充実・医療関連施設等見学・介護体験	進路	・順天堂大学と連携し、医療看護講座を実施した。 ・国際医療福祉大学、聖隷クリストファー大学、富士リハビリテーション大学校、と連携し、リハビリ職講座を実施した。	A	・順天堂大学の施設を使って、ディベートの準備を行ったため、充実したディベートになった。来年度は順天堂大学での実習も計画したい。 ・東都大学と、中等部を中心に医療講座の連携を行う。 ・施設の訪問や看護体験が再開され、生徒の経験の場を確保できた。
		グローバル化に対応したオンライン等による国際理解教育の推進	・英語教育の推進 ・国際的な英語力の指標を基に、授業・家庭学習の改善を図り、資格取得を奨励	英語	・中高ともにSpeaking・Writingを強みとしながら、Reading・Listeningの強化に力点を置いていくことを共有し、授業や家庭学習の改善に向けた取組を推進した。	B	・GTEC受検日程の変更に伴う目標値の再検討が必要である。 ・授業と家庭学習が、定期試験、外部模試、GTEC、英検の結果に連動するようなつながりをもった指導を行っていく。
		同窓会、PTAと連携した在校生卒業生の就職支援の研究	・PTA保護者進路講演会の実施	進路	・PTA大学見学を中央大学と神奈川工科大学で実施。 ・3月に進路講演会を実施予定。	B	・PTAに情報を発信する機会を増やしたい。 ・過去に参加した保護者の感想なども、募集の際に添付し、参加しやすい状況をつくる。 ・PTA進路業では進路説明する機会となっている。課題として参加人数を増やしたい。

	達成方法	成果目標	担当	達成状況	評価	成果と課題	
5	中高一貫の強みを生かした学校改革・働き方改革の推進	中高の絆を強くし、6年間の指導体制を確立し、流出防止を図る。	・自尊感情を高める指導の研究 振り返りシート カウンセリング室だより 年10回	保健	・便りはカウンセリング室より1月現在8回発行しており、年度末には9回発行できる予定である。人権教育については、委員会生徒がアンケートを作成し、その結果を受けて人権だよりを作成、人権意識の高揚に努めた。	A	・引き続き、カウンセリング室だよりに掲載する内容を、生徒の心の悩みの解消に少しでもつながるように工夫したい。 ・例年通り、生徒が自主的に人権について考え、調査してプレゼンできた。
		・不登校対策 できたことノートの実践と研究	中等部	・生徒が記録したものを回収し、担任が励ましの言葉を返している。 ・SCとの連携、定期的な家庭連絡を実施。	A	・生徒の実態やなかなか口にできない悩みなどの把握ができた。担任によってやり取りに差が出てしまっているのを、生徒からの声を意識的に聞く場を設けるようにしたい。	
		・6年間で生徒を育てるための教員の人事交流、研修等の実施	管理職	・人事交流、中高各1人(英語) ・中高合同研修を実施した。	A	・学校目標を目指し、新たなスクール・ポリシーを共有した上で、6年間を見通した教育活動が行えるように中高合同での研修を進めていく。	
		・シニアティーチャー	研修	・生徒主体の運営が定着した。 ・中高生徒のマッチングを、生徒たち自身で組むことができた。	A	・シニアティーチャーは学校祭に次ぐ大きな中高連携のひとつの柱である。生徒、教員の仕事を精査し、生徒主体の運営ができた。 ・学力差があり、教授が困難な生徒がいた。	
		・難関大対策講座の充実	進路	・生徒の希望に合わせた講座を実施	A	・難関大の志望理由指導を研究したい。	
		・高校模擬授業、高校教員の面接の実施	接続	・模擬授業、面談を予定通り実施 ・実情に合わせた個別指導を実施	A	・高校教員との面接に備え、学級担任との面接を重ね、自分の考えをしっかりとまとめて臨むことができた。模擬授業では、高校の授業を体感し、高校生になるまでに身につけるべき力を確認し、事後に活かすことができた。 ・個別指導では、将来のキャリアについて考えるいい機会とすることができた。この指導の目的を教員にあらためて周知することで、より効果的な指導になるようにしたい。	
		・PTA地区会員の絆の強化	総務	・昨年に続き体育館にてPTA総会開催。総会への参加率は45.7%	A	・昨年よりも参加率が7.5%向上したが、保護者への負担の大きさを鑑み、運営方法について今後検討していく。	
	協働性の向上によるPTA活動の効率的運営	・PTA役員会の効率的運営 ・PTA地区会の質的改善	総務	・計画通り実施することができた。	A	・積極的に参加してくれた。今後も、更なる効率的運営を目指し企画提案していく。	
	本校教育への理解を深める広報活動の強化	・本校からの情報発信の充実 本校行事に関する記事をローカル紙へ提供 ・地域及び小中学校への情報提供 HPの一層の充実、学校説明会等の充実	管理職	・ローカル紙に10回掲載された。 ・学校のホームページや中高別のブログに加え、InstagramとXを始めた。 ・あゆみだよりを25回(1月19日段階)発行した。 ・学園通り側に電光掲示板を設置した。	B	・今後も積極的に行っていく。	
	休暇取得の推進	・割振、振替の徹底 夏期休業中の休暇取得促進日の設定 ・部活動休日週1日完全実施 休暇取得促進日の取得 100%	管理職	・夏季休業中の一斉閉庁日を休暇取得促進日とし、休暇取得促進を図った。	B	・休暇取得日数が少ない人もいるため、今後も休暇取得を促進する。 ・部活動休日週1日を徹底していく。	
時間外労働時間の縮減	・定時退勤日の設定	管理職	・毎週月曜日に設定している。 ・「教育活動の質の向上を目指して」として、活動内容の精査と教員の業務削減を行った。	B	・業務の効率化や精選を図り、在校時間を減らしていく。 ・定時退庁日の周知を図り、定時退勤できる人を増す。		